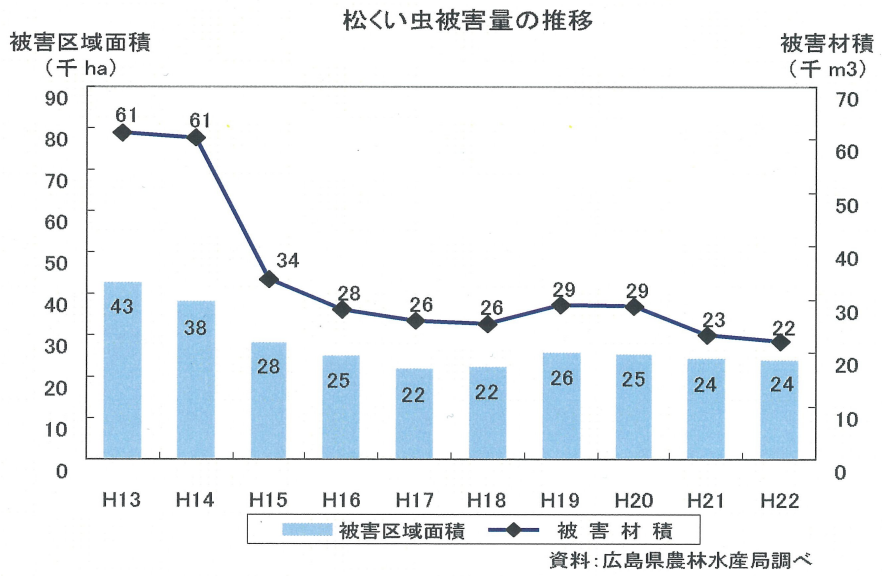
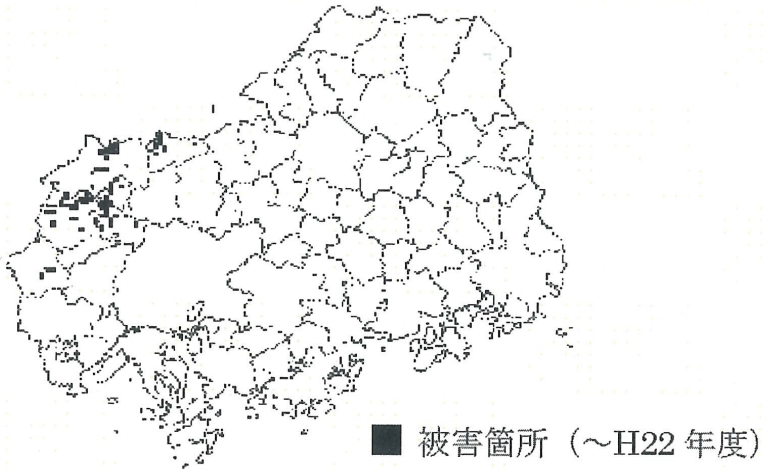
④　松くい虫被害等

松くい虫被害は，昭和 40 年代から瀬戸内海沿岸のマツ林を中心に被害が発生し，平成 6 年度には被害面積 60,000haまで広がった。その後，被害は減少傾向にあるが，終息するまでには至っていない。

また，近年では，新たに「ナラ枯れ」が県北部で発生している。「ナラ枯れ」は，カシノナガキクイムシという甲虫が，病原菌（ラファエレア・クエルキボーラ菌）を伝播することによって，ナラ類・カシ類などの樹木に起こる伝染病である。広島県では，平成 18 年度に初めて確認され，今後の被害拡大が懸念され，被害のまん延防止対策が喫緊の課題となっている。



【ナラ枯れの発生状況】